

奈良盆地東縁断層帯地震の概要

奈良盆地東縁断層帯は、京都府から奈良県にかけてほぼ南北に延びる活断層です。この活断層はわが国の主な活断層の中でも活動度が高いグループに属しており、奈良盆地東縁断層帯地震の発生確率は下表の通り評価されています。

今後30年以内の地震発生確率	ほぼ0%～5%	橿原市で想定される被害量	
今後50年以内の地震発生確率	ほぼ0%～7%	建物の全壊	13,938棟
今後100年以内の地震発生確率	ほぼ0%～10%	建物の半壊	8,483棟
平均活動間隔	約5,000年	死者	642人
最新活動時期	約11,000年前～1,200年前	負傷者	1,639人

このマップでは、奈良盆地東縁断層帯地震の規模をマグニチュード7.5と想定しています。

中央構造線断層帯地震の概要

中央構造線断層帯は、近畿地方から四国北部を経て伊予灘に達する長大な活断層です。この活断層はわが国の主な活断層の中でも活動度が高いグループに属しており、中央構造線断層帯地震（金剛山地東縁-和泉山脈南縁区間）の発生確率は下表の通り評価されています。

今後30年以内の地震発生確率	ほぼ0%～5%	橿原市で想定される被害量	
今後50年以内の地震発生確率	ほぼ0%～9%	建物の全壊	12,714棟
今後100年以内の地震発生確率	ほぼ0%～20%	建物の半壊	8,985棟
平均活動間隔	約2,000年～12,000年	死者	594人
最新活動時期	1～4世紀	負傷者	1,581人

このマップでは、中央構造線断層帯地震の規模をマグニチュード8.0と想定しています。

東南海・南海地震の概要

東南海・南海地震は、太平洋沖の南海トラフで発生する海溝型の地震です。東南海・南海地震の発生確率は内陸の活断層地震に比べて高く、下表の通り評価されています。

	東南海地震	南海地震	橿原市で想定される被害量	
今後10年以内の地震発生確率	20%程度	10%程度	建物の全壊	247棟
今後30年以内の地震発生確率	60～70%程度	50%程度	建物の半壊	219棟
今後50年以内の地震発生確率	90%程度	80～90%	死者	0人
平均発生間隔	111.6年	114.0年	負傷者	96人
最新発生時期	63.1年前	61.0年前		

このマップでは、東南海地震と南海地震の同時発生を想定し、その規模をマグニチュード8.6としています。